

殺菌剤

スクレア®フロアブル

マンデストロビン 40.0%

種類名／マンデストロビン水和剤
農林水産省登録／第23701号(住友化学登録)
毒性／普通物*
有効年限／5年
包装／166ml×40、250ml×20

特 長

- 菌核病に優れた効果を示します。
- ナシ黒星病、モモ灰星病、ホモブシス腐敗病に優れた効果を示します。
- 多くの作物で収穫前日まで使用可能です(詳しくは適用内容をご確認ください)。

適用病害と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
りんご	黒星病 輪紋病	2000～3000倍	200～ 700 ℓ	収穫前日 まで	3回	散布		
	うどんこ病 モニリア病	3000倍						
ぶどう	つる割病	500～1000倍		休眠期	本剤 1回 マンデストロビン剤 4回 〔休眠期は1回、 生育期は3回〕			
	晚腐病 黒とう病 うどんこ病 灰色かび病	2000～3000倍			本剤 3回 マンデストロビン剤 4回 〔休眠期は1回、 生育期は3回〕			
おうとう	幼果菌核病 炭そ病	2000倍		収穫前日 まで	3回			
	灰星病	2000～3000倍						
	褐色せん孔病	3000倍						
もネクタリン	うどんこ病 果実赤点病 灰星病 黒星病 ホモブシス腐敗病	2000～3000倍						
	かき						落葉病 うどんこ病 炭そ病 灰色かび病	
なし	黒星病 うどんこ病 輪紋病 心腐れ症（胴枯病菌）						3000倍	
	胴枯病							
小粒核果類 （うめを除く）	黒星病 灰星病	2000～3000倍						
うめ	環紋葉枯病 黒星病 灰星病							
トマト ミニトマト	菌核病 斑点病	2000倍					100～ 300 ℓ	

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
なす	菌核病 褐紋病 フザリウム立枯病	2000倍	100～ 300 ℓ	収穫前日 まで	3回	散布
きゅうり はくさい メロ ピーマン とうがらし類	菌核病 炭そ病					
カリフラワー レタス 非結球レタス	菌核病					
キャベツ		32倍	1.6 ℓ			無人 航空機 散布
ブロッコリー	菌核病 黒すす病	2000倍	100～ 300 ℓ	は種7日後 まで	2回	散布
いちご	菌核病 うどんこ病					
すいか	菌核病 炭そ病 つる枯病					
非結球あぶらな科 葉菜類 しゅんぎく	炭そ病					
ほうれんそう	萎凋病	1000倍	1 ℓ /m ²	は種7日後 まで	2回	灌注
つるむらさき	紫斑病	3000倍	100～ 300 ℓ	収穫前日 まで	3回	散布
しそ（花穂）	斑点病	2000倍			2回	
たまねぎ	灰色腐敗病 灰色かび病 小菌核病				3回	
豆類 （種実、但し、だいず、 あずき、らっかせいを 除く） 豆類 （未成熟、但し、 さやえんどうを除く）	菌核病 炭そ病 灰色かび病					
あずき	菌核病	16倍	0.8 ℓ		3回	無人 航空機 散布
さやえんどう	褐斑病 褐紋病 菌核病 炭そ病 灰色かび病	2000倍	100～ 300 ℓ			散布
だいず	紫斑病 菌核病 炭そ病 灰色かび病	16倍	0.8 ℓ			無人 航空機 散布

（つづく）

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
茶	輪斑病 新梢枯死症 炭そ病 もち病 網もち病	2000倍	200～ 400ℓ	摘採3日前 まで	3回	散布

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調製してください。
- 無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機（無人ヘリコプター等）散布・滴下に関する注意」をご参照ください。



- 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- みずかけな（水掛菜）に使用する場合は、圃場内に水がない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- ぶどうに使用する場合、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意してください。
- なしに使用する場合、花弁の焼け、葉への褐点発生等の薬害を生じるおそれがあるので、次の点に注意してください。
 - ①開花期に使用する場合は、展着剤を加用しないでください。
 - ②他の薬剤を混用する場合や展着剤を加用する場合は、事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。
 - ③気象条件等により散布時や散布後に湿度が高く、薬液が長時間乾かなかった場合は、薬害が生じやすいので、使用しないでください。
 - ④施設栽培、トンネル栽培、雨除け栽培などの多湿になりやすい条件下では薬液が乾きにくいおそれがあるため、注意して使用してください。
 - ⑤高温多湿となりやすい施設栽培の場合は、散布前後に十分な換気を行い、極端な高温多湿となりやすい条件の場合は散布しないでください。
- 施設栽培で施設内が高温多湿な場合は、薬害を防ぐため散布前後に十分な換気を行ってください。また、特に極端な高温多湿となりやすい条件の場合は使用しないでください。
- 乾燥が続く条件下においてほうれんそうに対し灌注で使用する場合、株立数減少などが起きることがあるので注意してください。

■蚕毒

- 蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにしてください。

■貯蔵上の注意

- 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。